

## 薬剤とフレイル

秋下 雅弘<sup>1</sup> 東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座教授

## KEY WORDS

ポリファーマシー / 薬物有害事象 / アドヒアランス

## 抄 録

高齢者は多病ゆえに多剤服用となり、薬物有害事象や服薬アドヒアランス低下などの問題を起こしやすい。そのなかでも薬剤によるフレイルは要介護につながる大きな問題である。多くの薬剤が原因となるが、ベンゾジアゼピン系薬剤をはじめとする向精神薬とさまざまな領域で用いられる抗コリン系薬剤に対する注意が最も重要である。また、生活習慣病管理と処方にも工夫が求められる。

## I はじめに

高齢者の薬物療法にはフレイルに対する配慮が必須である。つまり、フレイルの多くは生活習慣病を背景として発症するため多病であり、そのため併存疾患の管理をどうするかが問題となる。特に薬物有害事象と服薬管理への配慮は欠かせない。本稿では、高齢者に多く使われる薬剤によるフレイルを中心に、高齢者に対する薬物療法の注意点を解説する。

## II 高齢者のポリファーマシー

高齢患者はいくつもの疾患や症候を有するため、多剤服用になりやすい。われわれが行った老年科5施設の外來調査<sup>1)</sup>では、65~74歳で平均約4種類、75歳以上では約5種類の薬剤が処方されていた。多剤服用は薬物有害事象や服薬アドヒアランス低下などの問題を起こしやすく、多剤服用のうち特に害をなすものをポリファーマシー (polypharmacy) として多剤服用と使い分けることも行われる。有害事象の発生は

<sup>1</sup> Masahiro Akishita  
〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1  
E-mail: akishita-tky@umin.ac.jp

COI: 講演料: アステラス製薬, エーザイ, MSD, 小野薬品, 興和創薬, 第一三共, 大日本住友製薬, 武田薬品, 田辺三菱製薬, 日本イーライリリー, 日本ベーリンガーインゲルハイム, ファイザー, 持田製薬  
奨学寄付金: アステラス製薬, アストラゼネカ, MSD, 大塚製薬, 小野薬品, 第一三共, 大正富山医薬品, 武田薬品, 田辺三菱製薬, 中外製薬, ツムラ, 日本ベーリンガーインゲルハイム, バイエル薬品, ファイザー, 持田製薬